

e-ビーフNEWS 北の牧場から

November 2022

月刊情報誌
No.107発行
特定NPO環境リサイクル肉牛協議会
〒080-0351
北海道河東郡喜望峯町字然別
北5線西25番地2
FAX 0155-40-7301

十勝の初冬

朝6時でもまだ薄暗い、日の入りも早く3時過ぎには、蛍光灯を付けないと字が見えない。初霜から初氷が早い早い、温度計の氷点下を指す日が増えてきました。畑に降りた霜が白っぽくなり、地べたが乾いて表層から凍ってゆきます。黄金色に輝いたカラマツがはらはらと散り、畑地を黄色に染めかかる。秋蒔き小麦が青々ツツサとのび、初冬の褐色大地に十勝のパッチワークを作っています。農作業も終盤。ビートハーベスターが動き回り、畑に大きな収穫物の山を築いています。太くなった大根やまんまるの葉物も取り急いでいます。牧場もデントコーンや牧草の収穫も終わり、冬支度終了(だと思います)

クアークアールと白鳥達のくの字編隊が、毎日のように南下してゆきます。本物の使用者のやってくるのも、今年早そうです



活動のお知らせ

- 11/10(木) **第12回 北海道肉専用種枝肉共励会** (株)北海道畜産公社 十勝工場
 11/10(木) **第19回 資源循環型肉牛生産シンポジウム2022** とかちプラザ2階 視聴覚室
 13:00 シンポジウムテーマ「脱炭素社会における畜産を考える」
 基調講演「脱炭素社会における資源循環型牛肉生産(仮)」 北海道大学名誉教授 波多野隆介氏
 話題提供1.「脱炭素循環牧場・地域を目指す」① 放牧酪農家 十勝清水町 出田牧場 出田 基子 氏
 話題提供2.「脱炭素循環牧場・地域を目指す」②
 「再生可能エネルギーを活用したまちづくり」 鹿追町 環境保全センター担当課長 城石 賢一 氏
 話題提供3.「農地を守ろう!カバークロッププロジェクト」(仮) 東都生協商品部 部長補佐 吉澤 正義 氏
 話題提供4.「肉牛専用種枝肉共励会の成績について」
 司会 北海道酪農畜産協会 参事 山本 裕介 氏 講評 帯広畜産大学 教授 口田 圭吾 氏

NEWSばか読み

- 農水省 8月農業物価指数 20年対比38%増 飼料27%増27か月連続10/1:どこまで
- 改正輸出促進法施行 品目別団体の国の認定開始10/1:効果検証
- JAS法改正 有機日本酒やFAMIC改正法施行
10/1:有機関連法案注目
- 肥料補てん 国の7割補てんに24県上乘せ10/4:間に合うか
- マック 全店に紙製ストロー、木製フォーク 年間900t脱プラ効果
10/4:着実に
- 新規雇用就農者21年11千人15%増 親元就農者を上回る
10/5:歓迎
- 全農DAIZ 国産大豆を使った商品開発本格化 コープデリに供給開始10/5:増えるね
- 鹿児島全共開幕41道府県から438頭出品10/6:評価
- 8月輸出 青果物4割増、乳製品53%増 粉ミルク・脱脂粉乳
10/6:新たな需要
- 飼料補てん 北海道配合飼料当たり600円/t10/7:間に合うか
- 農水省 畜舎建設規制緩和 来年4月から排水処理も対象
10/7:まだまだ
- 海運業 脱炭素で船の運航に帆を活用10/8:帆船復活
- 鹿児島全共 上位を九州勢が独占10/10:さすが
- 新設7区脂質評価で宮崎生産者 MUFA65.1% 10万円で落札
10/10:評価の変化
- 9月和牛相場 60万円台に 昨対16%減 十勝71万円
10/11:十勝に評価
- 農水省 GI登録要件を緩和 知名度も審査対象に
10/13:普及が目的
- 牛マルキン8月肉専(和牛)35道県で発動10/13:肥育経営圧迫
- スーパー各社 8月中間決算 減収に 巣ごもり需要が一服
10/14:変化
- 米国 輸送船運賃が最高値 穀物の先高基調
10/14:すべてがかわる
- 道酪対 22年の生乳生産5万t減産の方針 10/15:基調変わらず悪化
- 22年産米 収穫4.3%減 国の適正量を達成 北海道作況106
10/15:道目立過ぎ
- 中標津酪農家 固液分離管理方法でJクレジット登録
10/17:農業の脱炭素貢献
- 野菜相場高騰 天候不順や鍋材需要大10/18:季節が早い
- 下水汚泥肥料で官民検討会開始10/18:リサイクル
- 農水省 酪農家対策で1頭1万円(道7200) 26ヶ月齢対象に
10/18:経産牛対象
- 財務省 飼料米を専用種に交付限定提起10/20:規制基準化
- 農水省 23年度米 適正生産量669万tに設定10/21:
- 財務省 4-9月貿易赤字11兆円過去最大 エネルギー高・円安
10/21:深刻
- 鶏卵 2割高 観光外食中食好調10/22:ケッコー
- 農水省 21年作付面積 400万ha割れ398万ha過去最低
10/24:
- コメ作付け減、麦大豆が増加
- 配合飼料8月が10万円/t台 最高値続く10/25:きつい
- 世界気象機関 世界の温室効果ガス濃度が最高更新
10/27:一向に変わらず
- 生乳生産量9月 前年割れ 北海道2%減10/27:敏感反応
- 政府 フランスの「エガリム法」(生産費尊重)を検討10/28:今だから
- 9月農業物価 肥飼料高止まり、子牛下落続く10/29:深刻さ増す
滋賀県 全国初「みどり計画」作成 環境負荷軽減の農家認定へ
10/31:はじまる

ホルス

相場持ち直し上げ基調。
神明畜産影響が引合強まっている。
販売は決して強くはないが、外食の回復と為替含めた輸入アイテムの不安定要素から国産シフトも加速し引合増。
カタロース、ロインは完売欠品状態、赤身バラ系も余剰なしホルス自体、出回り少なく引合増から定期以外の供給は難しい状況。

経産生

経産牛相場は若干の上下あるものの据置き状況。
上々頭数も前年並み維持しており飼料高騰や仔牛価格の暴落等の要因から出回り頭数は年内維持予測。
乳価の期中値上げ等で今後の出回り頭数推移に注視。販売は
外食関係からの引合増加してきており慢性的に欠品しているヒレ、赤身モモウデ、バラと一定引合維持しており余剰は少ない。
挽き材は輸入物のコスト上昇から、国産シフトしており徐々に引合強まっている。

左先生の畜産学研究NEWS

1.畜産技術809号(2022.10)

(1)技術情報:アミノ酸バランス改善飼料による牛排せつ物由来の温室効果ガス削減(神谷充、農・食産技総研機構、畜産研部門)

豚やブロイラーと違い肥育牛の飼料タンパク質を減らすと温室効果ガスの一酸化二窒素(N_2O)を減らせますが、網ノ酸不足により生産性が低下しますホルスタイン種去勢牛の試験では、肥育牛の制限アミノ酸とされるリジンやメチオニンをルーメンバイパス加工して補給すれば飼料中のタンパク質を減らし、増体成績を損ねず、糞尿中の窒素排泄量を減らして N_2O を削減できました。今後、黒毛和種や交雑種肥育牛のアミノ酸バランス改善飼料の開発で排泄物からの N_2O の削減が可能と思われます。

2.日本畜産学会第130回大会講演要旨(2022.9.14-17: 東農大)

(1) IYS05: 黒毛和種牛の飼料効率とリンクするルーメン細菌群の探索(三浦広卓ほか、北大院農・摂大農)

黒毛和種肥育牛83頭の反芻残渣について飼料効率の高、中間、低の各牛群毎に細菌叢を比較解析しました。その結果、牛群間で細菌叢の構成に有意な違いはないものの低飼料効率群では、乳酸産生菌群、乳酸利用菌群の顕著な減少が観られ、この細菌分布量の変化が肥育中期のルーメン発

酵を変えて宿主の飼料効率に影響した可能性が考えられました。

(2)Ⅱ16-08:黒毛和種去勢牛における飼養期間が枝肉格付けおよび画像解析形質に及ぼす影響(宮田あゆ他、帯畜大院)

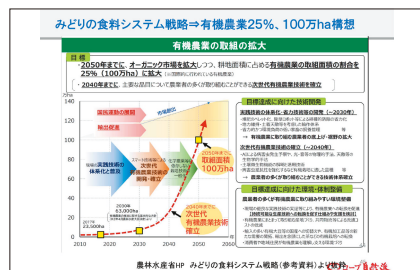
多くの肉牛飼養で牛は繁殖農家と肥育農家で飼養されます。枝肉生産の効率的な肉牛生産のためにはそれぞれの最適な飼養期間を設定する必要があります。2019年屠畜の黒毛和種去勢牛飼養期間の平均値は繁殖農家278.7日、肥育農家617日でした。前者の飼養期間が長期化すると枝重が有意に減少し、肥育期間が長期化すると霜降り量の増加よりもコザシの増加に有効で枝肉の価値向上に寄与すると思われました。

(3)IV16-12:有機畜産実践牧場で生産された日本短角種の骨格筋特性(小笠原英毅他、北里大)

わが国における肉牛の有機畜産の飼養管理には草資源のみ(グラスフェッド)飼養と穀物併用(グレインフェッド)飼養があります。有機畜産飼養した日本短角種去勢牛の骨格筋特性を検討しました。穀物併用飼養では速筋型Ⅱ筋繊維が多く、ID型筋繊維も一定量存在することが示されました。一方、草資源のみ飼養では脂肪滴を含む筋繊維割合が多く、グラスフェッドの日本短角牛では大腿二頭筋中の α リノレン酸含量が多い特徴がありました。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2021

生活協同組合連合会 コープ自然派事業連合 商品部統括マネージャー 前田 陽一氏



EUと日本の違い

- ◎EUの「ファーム・to・フォーク（農場から食卓まで）戦略」
- ◎グリーンディールを実現するための方針的な大方向性
- 有機農業の取組面積割合：8.5%⇒2030年：25%
⇒日本のみどり食の食料システム戦略
- 有機農業の取組面積割合：0.5%⇒2035年：25%
- 農業50削減、化学肥料20%削減
⇒日本：農業50%削減、化学肥料30%削減
- ◎EUがなぜ有機農業を推進するのか？（EU委員会）
- 有機農業は生物多様性が約30%増加
- 有機農地で飼育された動物は動物福祉の水準が高い
- 抗生物質の摂取量も低い
- 有機農場は収入が高く、回復力がある
- 消費者の知る権利が保証されている
- ◎EU有機農業法施行期日を公表（2021年3月25日）

日本: 具体的な有機農業行動計画はまだ。
未知のイノベーションでなく、延長線上ではない、発想の転換が必要。

みどりの食料システム戦略への対応

有機農業の取組面積の割合25%、100haの実現に向けて

- (4) 有機農業の推進
「有機の生産者」1000人の有機農業を育成をめざす。
①「高品質・多機能」の栽培技術開発。
②「POFAS」島有機農業サポートセンター 18ヶ所148名が稼働。
③Organic Smile 島有機のブランド 2021.10.1設立
④食生活と食文化の発展の推進：サトウキビ、ジャガイモ、大豆、小麦、米、大麦、青豆、高菜、豆、麦、
産地プロダクト/主要産地(熊本・熊本・兵庫・愛知・長野・北海道)
＝青豆栽培、農園事業、統一仕入れ、全国統一。
＝水素水・アロエジュース(熊本<=>青戸<=>=>宮古<=>=>北野、北海道)
(2) 農産加工・アロエジュースプロダクト
＝産地直産品、大宮の稼働(川上から、加工品開発及び販売(川下)までの
バリューチェーン)
＝アロエジュースの生産性(加工工程)の向上が期待される。食料品を食糧不足。
＝有機小豆・大豆を活用した有機加工品開発をすすめる。

※友好生協(ネットワーク21)やその他生協、JAなど協同組合間協同の中で推進。

アニマルウェルフェアの今後の展開

- 11/16 アニマルウェルフェア学習会（講師：大木茂さん）
採卵鶏のアニマルウェルフェア基準づくりに向けてヨーロッパの基準などを学ぶ。
- 11/18 採卵鶏アンバサダー実施
組合員商品委員とともに、基準づくりに向けた採卵鶏生産者との意見交換を行う。
- ・アニマルウェルフェア対応の自然豚の販売促進。
部位・パランスの確保とAW豚革製品の販促。
- ・採卵鶏の平飼インシツをすすめる。
- ・商品取扱いに基いては、アニマルウェルフェア基準の設定。
- ・特に卵卵鶏については、ハナログマーク記載。

ご清聴ありがとうございました。

転載・再利用は固くお断りします